令和5年度　県立山形北高等学校　学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標	
	一つ「ほがらかに　温かく」
	二つ「まえむきに　誇らしく」
	三つ「しなやかに　逞しく」

スクール・ミッション　文化と芸術の風薫る環境の中で、校歌にある「倦(う)まず　たゆまず　ほがらかに」を胸に、普通科と音楽科の生徒が様々な関わりを通して、互いに感性と能力を磨き合いながら粘り強く着実に学び、自己実現に向けて果敢に挑戦し続け、未来をひらき地域の社会と文化を支える人材になるための力を育成します。

達成度	
A	達成
B	おおむね達成
C	やや不十分
D	不十分

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自己評価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	意見・要望・評価等
1　学力向上と学習指導の充実	(1)授業第一主義の徹底を図る。	①年間授業時数を１単位35時間確保する。 ②校務支援ソフト（e-教務）を活用し出欠の確認や成績管理を適切に行う。	・授業日数を確保する。年間行事予定を確認し、短縮授業は必要最小限にとどめる。 ・考査や学期ごとに職員へ資料プリントを配布し、円滑な業務の遂行をはかる。	・概ね達成されている。短縮授業や自習も最小になるよう時間割変更も行っている。 ・成績入力に関しては、年度当初に資料プリントが配布された。考査や学期ごとには配布されず、多少混乱した場面が見られた。	B	校務支援ソフトの有効的な活用を目指し、基本的な考え方を共有し、全職員に周知する必要がある。	○保護者による学校評価の「入学させてよかった」の質問の回答が高くてよかった。 ○総合的な探究の時間は、よかった。仕事を見る機会を増やし、キャリアデザインのイメージをみせてあげるのもよい。 ○音楽科がもっと充実して生徒が増えることを願っている。
	(2)教科指導力の向上を図るため、研究授業・公開授業を推進する。	①各教科で研究授業を１回以上実施し、職員全体で合評会を行う。 ②観点別評価への理解を深め、シラバスや多様な授業評価に反映させる。 ③年間を通じ、総合的な探究の時間における主体的・協働的な学びを各学年で実施する。	・研究授業の実施を周知するとともに、職員相互の授業見学を推進する ・校内研修会の開催する。また、外部で開催される研修会への参加を促す。 ・各学年の年間計画に基づき、全職員の協力による指導を行う。	・県教委の学校経営計画指導や、英語科の指導力向上の研修会があり、積極的に研究授業が行われた。 ・観点別の校内研修会を11月30日実施。また教科内で積極的に意見交換して進めている。 ・各学年の担当を中心にして、全職員体制を構築し、将来につながる活動が実施できている。	A	観点別評価に関しては、各教科とも実施に際してまだ手探りの状態でいることが多く、是非校内研修会を実施し、問題の共有化を図りたい。 　また、探究活動と進路との親和性を鑑みると、進路課との関連や提携などを模索する必要がある。	
	(3)確かな学力育成のため、探究的な学びを推進するとともに、学習時間の確保を図る。	①校内研修会を実施し、１人１台端末およびソフト、アプリの利用促進を図る。 ②１人１台端末、情報機器の適切な管理に努める。 ③家庭学習時間平日３時間以上、休日４時間以上を目指させる。	・他校の事例紹介や利用に関する研修会を実施する。 ・同意書の回収や保険への加入を適切に行う。また、記録簿を整備し故障や破損に対応する。 ・学習時間調査を実施し、家庭学習の定着を図る。	・校内研修会は4月に実施。 ・同意書の回収や保険への加入は適切に行われた。 ・2回の家庭学習時間調査（6月11月）を行い、各学年の実情を見ることができたが、学習時間の短さが浮き彫りになった。	B	職員の意見を集め、必要な研修会を計画する必要がある。 学習時間調査を2回行った。時期的な変化や学年ごとの傾向などを分析検討する機会を作り、生徒の進路実現へとつながる学力向上策を練る。	
	(4)読書活動を推進する。	①先見の時間の読書ｶｰﾄﾞ提出率を100%にする。 ②年間貸出冊数1000冊以上を目指す。 ③年間一人10冊以上の読書を奨励する。	・生徒への読書指導・小論文指導を徹底する。各課・学年との連携を図る。 ・図書館活動・図書委員会活動の充実を図る。特設ｺｰﾅｰの更新など魅力的な図書館づくりを行う。また、探究的な学習での活用に対応できる環境を整える。 ・読書の意義について指導する。読書関連行事の更なる工夫を行う。	・今年度は図書委員が先見の時間の読書カードをとりまとめた。（昨年度までは担任）12月7日現在年間提出率は84.1% ・先見の時間の朝読書第3タームを中止し学年ごとの取り組み試行に変更した。 ・3学年の夏休み読書カードを廃止した。 ・12月7日現在、図書の全校貸出数は1319冊。前年度は840冊） ・3学年の授業で進路に関する本を探す時間を設けた効果が大きく夏以降に3年生の受験に向けた資料活用が増大した。 ・館内の配置替えを行った。 ・図書館オリエンテーションを実施した。 ・年度末に生徒個人の年間読書量についてアンケート調査を実施予定。 ・授業担当者が読書の意義を話した。 ・自主的な読書を啓発する環境整備が求められる。	B	・貸出は昨年より増えている。また夏休み以降、３年生の進路に関する利用が増えた。 ・読書カード提出率が９割に満たない点が課題。催促方法を再考する。 ・早い段階から自分に必要な資料を自ら探す力を養い、幅広く読む習慣をつけるためにも、従来の指定図書から自由図書へ変更する等、「先見の時間」を生徒に主体性を持たせより実りある時間に改善する必要がある。 ・図書館オリエンテーションに国語の授業を利用する事の是非について意見があり、他に方法があるか模索する。	
2　キャリア教育の推進	(1)３年間を見通したキャリア教育の一層の充実を図る。	①校外の体験活動や授業・講義、校内での説明会や出張講座等の参加率80%以上を目指す。 ②校内外のキャリア教育プログラムに積極的に参加し、その度に振り返りを行う。 ③教員向け進路指導研修会を実施し、参加率70%以上を目指す。	・1年間を通して校内外キャリア教育プログラムに一度は参加するよう働きかける。 ・中学校から続く記録（キャリアパスポート）に継続的に残す。 ・最新の入試状況を捉えて、情報共有化を進めていく。	・夏期休業中のオープンキャンパスへの参加（ほぼ全員） ・夢ナビ（フロムページ）ほぼ全員 ・各業者による進学説明会 ・進路講演会の振り返りや、学期ごとの振り返りの時間を設けて、継続的に記録を残した。 ・教員向けの小論文指導の動画視聴による研修会を実施	B	・校内外の各種プログラムへの参加数は減少し、進路決定への具体的なフィードバックや効果が見えにくい。来年度は1回開催になる夢ナビへの参加体制を検討する。 ・振り返りシートを確実に蓄積していくための方策を考える。 ・教員向けの動画視聴による研修会の実施については評価が分かれるが、次年度は講演会の追加も検討する。	○高校生の理工系、農学系の希望者が少ないので、興味ある人を伸ばして欲しい。 ○３年ＰＴＡ対象の進路説明会の講師選定を工夫してほしい。
	(2)進路第一志望達成に向け、全体と個別の両面からの指導を行う。	①生徒向け進路講演会について70%以上のプラス評価を目指し、また振り返りを行う。 ②保護者向け進路講演会の参加率50%以上を目指し、またアンケート評価において70%以上のプラス評価を目指す。	・各学年と連携を図りながら、外部の研究会で情報収集に努める。 ・該当学年が、３年間の進路指導の中でどのような情報が必要なのかを明確にして、保護者に伝える。	・山形大学入試研究会（会場：①山形南、②山大）にて情報交換 ・生徒向け進路講演会は講師選定から充実して行うことができた。 ・1、2年の保護者進路講演会の出席率は50%前後であった。 ・3年の総合型・推薦型選抜の保護者説明会は75%程度の出席率であった。	B	・情報交換などは更に密に実施できるよう工夫する。 ・保護者への連絡手段の工夫 ・総合型・学校推薦型選抜の希望者が年々増加する中、志望理由書作成や面接指導の実践方法について検討していく必要がある。	

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自　己　評　価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	意見・要望・評価等
３　生徒指導の推進及び特別活動の充実	(1)基本的生活習慣を身につけ、自己成長を図る。	①学校生活時間を守る。 ②交通事故発生件数０を目指す。 ③登下校・校外活動において、他校生の模範となる行動（交通安全、挨拶・礼儀等）を目指す。	・フルクラムの有効利用を図るとともに、各種委員会やHR活動を通して授業開始時間などの時間管理意識を高める。 ・生徒交通安全委員会の活動や集会等を利用した注意喚起等により、交通ルールやマナーについての徹底した指導を強化する。 ・生徒会執行部を中心に生徒総会、学年集会で話題に取り上げて生徒が主体的に行動するようにする。	・フルクラムは学年ごと有効に活用されている。 ・自転車による交通事故は６件だった。事故内容は被害事故４件、加害事故２件であった。近隣の住民からは交通ルールに関する苦情が１２件と多数あった。 ・交通ルールのマナーについての苦情が数件あり、決して良好な状態とは言えない。	C	引き続き有効活用を図る。常時、交通安全委員が交通マナーの向上の呼びかけを行う。 生活委員会では、公共の交通機関のマナー乗車や乱れた服装をしないように呼び掛けを徹底する。	○北高祭で一般公開ができてよかった。
	(2)豊かな人間性を育み、いじめ防止に取り組む。	①いじめの根絶を図る。 ②SNSに関わるトラブルを抑制する。	・アンケート調査を年３回実施するとともに、普段の生活から生徒の状態を把握して早期発見、防止に務める。 ・生活委員会の活動やチラシの作成、学年集会などでトラブル回避を喚起する。	・計画に沿って実施している。いじめの認知としては６件あったが、速やかな対応ができた。 ・SNSに関する誹謗中傷や嫌なことを言われているが１件あった。慎重な対応を心がけた。	C	アンケート調査のみに係わらず普段の生徒の生活状態を把握していじめの早期発見、防止に心がける。	
	(3)生徒会活動や部活動の活性化の推進や、地域貢献活動等の推奨を通して自己実現を図るとともに、自己肯定感や自己有用感、自己効力感を醸成する。	①生徒会行事に係る満足度を高める。 ②インターハイ並びに全国高総文祭への複数参加を目指す。 ③ボランティアエンジェルへの登録者増加を図る。（200名以上）	・生徒の主体的、協働的な活動を支援して北高三大行事を成功させる。 ・部活動運営方針に沿った活動を継続するとともに、安全管理に留意する。 ・地区の民生児童委員や市社会福祉協議会等関係団体との連携を強化する。生徒への情報提供機会の充実を図る。	・波乗り大会、合唱コンクール、北高祭は概ね成功裏に終了した。 ・マンドリン部、書道部、放送部、囲碁が全国高等学校総合文化祭に出場した。 ・登録人数は292名であり、山形市学習支援ボランティア、山形まるごとマラソン、日本一の芋煮フェスティバルなどボランティア活動を積極的に行った。	B	生徒の多様化する学校生活において、それぞれの場面で生徒が中心となって活躍できるように適切な行動や対応をする。	
４　健康の保持増進と快適な学習環境の整備	(1)心身の健康保持に努め、健康保持増進を図る。	①出席率95％以上を目指す。 ②不登校生徒対策として、一次予防を充実させる。 ③感染症の集団発生ゼロを目指す。	・基本的生活習慣の改善のための生徒保健委員会による啓蒙活動、生徒向け講演会等を行う。 ・心と体のエクササイズ、Hyper-QU、職員研修会、生徒向け講演会、カウンセリングを実施する。 ・感染症に関わる情報を収集し対策を講ずる。換気を行い密を避ける指導や、健康観察･消毒を行う。	・出席率97.7％（１学期）。保健委員会の研究発表（生活習慣・スマホ）を行った。 ・心と体のエクササイズ、Hyper-QU、職員研修会、いのちの学習、ＳＣなどを実施した。 ・行事後に感染者の増加が見られたが、呼びかけにより最小限に収められた。	B	出席率の目標は達成しているが、インフルエンザ、コロナ感染による出席停止に加え、それ以外の欠席も目立ってきている。良好な生活習慣を維持するための指導や、欠席した場合の学習サポートなどを、校内連携等で行っていく必要があるだろう。	○朝早くから教室環境を整えていただき感謝。
	(2)環境の美化に努め、快適な学習環境を維持する。	①登校日の清掃を完全実施する。 ②教室や水道の環境基準を遵守する。	・登校日（模試・講習・考査含む）の通常清掃や大掃除を実施し、年１回のワックスがけを行う。 ・定期点検や、温度・湿度・CO２濃度・照度、水質等の測定と改善を行う。	・大掃除、ワックス塗布（2年）を行った。 ・水質に問題ある箇所に適切に対応した。CO２濃度等は冬期に検査する予定。	B	老朽化するなか、修繕や清掃により、安全で清潔な校舎になるようにしたい。	
５　家庭、地域社会とのつながりの推進と安全安心な学習環境の整備	(1)開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を図る。	①ＨＰの月２回以上の更新、学校広報紙「緑陵」を月１回配布を通して、地域社会等への情報発信を行う。 ②PTA総会出席率を７０％以上を目指し、保護者との連携強化を図る。	・担当者との情報共有を図り、保護者、生徒、地域住民への情報発信を積極的に行う。 ・PTA総会や保護者会研修会の集会実施し、資料を事前配付し、協議の充実及び効率化を図る。	・多くの先生方の協力を得て、学校行事、部活動各種大会、進路講演会などの実施報告を活動風景画像と共に生徒の感想を入れ込み、情報発信することができた。 ・完全集会実施し、全体・各学年PTA総会の出席率は概ね70％であった。資料事前配付により、活発に協議が行われた。	B	保護者学校評価の意見を踏まえ対応する重点項目を教職員全員で検討し、改善を図る。山北ＰＴＡ活動のさらなる活性化を図りながらＲ６東北高Ｐ連山形大会の協力運営体制を構築する。	○学校通信「緑稜(カラー)」のさくら連絡網での配信がよかった。 ○年１回フリー参観を実施してはどうか。
	(2)危機管理体制を整備し、災害や事故の防止に努める。	①危機管理体制を不断に見直し、災害に応じた適切な体制を確立する。 ②「さくら連絡網」を活用し、情報を適切かつ迅速に発信する。 ③毎月定期点検を行い、校舎の維持管理を行う。	・危機管理を点検し、特にＪアラート発令時の避難行動、不審者侵入防止対策を見直し、徹底を図る。 ・職員、保護者、生徒への登録の徹底を図り、迅速な情報提供と安否確認を行う。 ・関係各所と連携を密にし、安全な学習環境の確保を図る。	・Jｱﾗｰﾄ､火災､地震を想定した避難訓練を実施し、避難行動・避難経路を確認できた。 ・学校からの情報発信、保護者からの連絡など日中及び夜間ともに活用範囲が拡大している。 ・生活課からの呼びかけで全教職員で安全点検さらに修理を実施している。	B	生徒及び教職員の健康安全を確保するために、校舎・校地の施設設備の点検を行い、重点改善箇所の検討さらには予算確保の上で、修理や新規購入につなげる必要がある。	